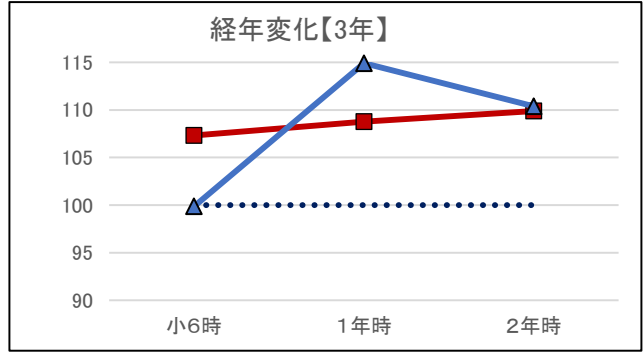
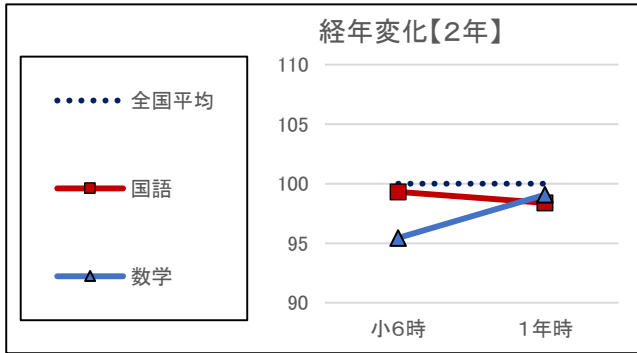


I 前年度の各種調査から見られる学校の状況

※釧路市では、1～2年生を対象に国語と数学で標準学力検査を実施していますが、本校では、独自に社会・理科・英語においても実施しています。

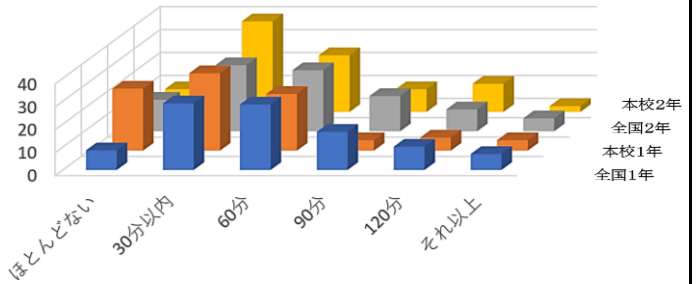
① 標準学力検査の経年変化（全国平均を100とする標準スコア）



② 学校の状況

- 2年生は国語、数学ともに全国平均を10ポイント以上上回り、おおむね良好な状況となった。
- ▲ 1年生は国語、数学ともに全国平均を若干下回った。
- 1年生の同一集団の経年変化を見ると、数学で上昇傾向が見える。1年生への指導の成果が表れた。
- ▲ 授業以外の学習時間において、60分以内の累計値を全国(1年66.0、2年69.1)と比較すると、1年は85.4(+19.4)、2年は74.1(+5.0)となった。全国値に比べ学習時間が少なく、特に1年生は4人に1人が家で学習をしていない結果となった。家庭学習の大切さを理解させながら、更なる励行を進めていく必要がある。

授業以外での学習量（平日）



II 今年度の学力向上に係る重点取組

① 学校全体での取組

授業づくり	学習集団づくり	学習習慣・環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> 「学ぶ意味と学ぶ楽しさを感じられる授業づくり」を研究主題に掲げ、全教員が授業改善に取り組む。 生徒に課題を解決させるための発問の工夫や話し合い活動を充実させる。 家庭学習の習慣化につながる取り組みを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中に話し合う場を意図的に設定し、ペア学習や小グループでの話し合い活動を多く取り入れるようにする。 授業中に話す場面と聞く場面のメリハリをつけるようにする。他の生徒の発表が理解できた場合は、うなづいたり、拍手をしたりするとともに、理解できない場合も「わからない」という発言を受け入れられる環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> テスト2週間前をパワーアップ週間と位置づけ、学習の見通しを立てさせ、10分間の朝学習に取り組みながら並行して家庭学習の習慣化を図る。 放課後学習の環境として、視聴覚室を常時開放し、学習の場を設ける。また、定期テスト前後の放課後学習をおこない、下位層の基礎・基本の定着を図る。 生徒会活動として学習委員会が連携して、家庭学習強化週間を設ける。 忘れた内容を意図的に課題として出す機会を設ける。

② 各教科での指導の重点

国語科の重点

- ・ 読書感想文や意見文、文章の要約など、「書くこと」に関して意図的に取り組む。
- ・ 文章の読み取りやレポート作成など重点的に授業で取り組み、自分で文章を構成する力を育成する。
- ・ 筆者の考えに対する自分の考えを書き、他者と交流する活動を行うなど「伝え合う」ことについても積極的に行う。

数学科の重点

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、考えを交流する場面や課題を個人・グループで追求する活動を位置づける。
- ・考えを交流する場面や課題を個人・グループで追求する活動を位置づけながら更なる授業改善を推進する。
- ・補充学習などの機会を設け、基礎基本の定着を図る場面を設定する。

社会科の重点

- ・授業中に意見を言いやすいように、少人数での話し合いや相談の回数を増やし、言語活動を促す。
- ・複数資料の読み取る力を育成するために、積極的に地図帳やかけ地図を活用したり、クロームブックなどを活用しながら積極的に資料を活用したりすることで、自分たちの言葉で話す機会を設け、言語活動の充実を図る。

理科の重点

- ・実験・観察の充実によって、主体的な活動を促すことで、話し合い活動を充実させた授業を実践する。
- ・実験方法や結果からわかることなど生徒自身で考え、交流する場面を毎時間設定する。
- ・毎授業で、基礎力を定着させる時間を確保する。

英語科の重点

- ・ICTを用いて「聞いて概要を理解すること」を取り入れることで、リスニング力を高める。
- ・文法を用いて自分の言いたいことを伝えあう練習や、英作文を発表しあう活動を取り入れ、定着を確認しあえる場面を設定する。
- ・反復練習の時間を設けたり、単元テストなどを取り入れたりして、語彙力や基礎的な力を身に付けさせる活動を取り入れる。

音楽科の重点

鑑賞分野では、教材となる映像を厳選し、視覚的な効果からも生徒の興味・関心を高め、学習内容の理解を深める。

ストンプなどリズムを中心としたグループでの学習を取り入れ、学び合う場面を設定する。

アルトリコーダーの授業も徐々に取組を進める。

体育科の重点

授業の導入の段階で目標をしっかりと明確にし、どのような取り組みが必要か把握してから授業を進める。

個に向けた能力別の課題をそれぞれ設定し、個々に実力アップするための具体的な取り組み方法を考える活動を取り入れる。

級友たちで話し合う活動を取り入れ、お互いに課題解決や目標達成を目指す授業づくりをする。

美術科の重点

日常生活で馴染みのある商品や作品、風景写真などを用いて、身近にある芸術作品への興味・関心を高める授業づくりをする。

制作の過程などにも重点をおいた授業づくりを考え、アイデアを形にしていけるような授業づくりをする。

鑑賞の授業では話し合いの場面を設定し、見方や考え方など創造性を広げる授業づくりをする。

技術・家庭科の重点

自らの生活や体験談を交流する活動を取り入れ、意欲的に身近な課題や疑問に視点を充て学習内容とリンクさせる授業を構築する

写真や動画などの視覚的な資料を用い、その資料を観て自分たちで実践したり、教え合ったりして自分たちで解決する活動を取り入れる。